

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471500835
法人名	社会福祉法人 田尻福祉会
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地 (電話番号)	989-4302 宮城県大崎市田尻大貫字境36-1 (電話) 0229-38-1533
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年9月5日

## 【情報提供票より】(19年 9月 5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計9人	人
職員数	11人	常勤7人, 非常勤1人, 兼務3人	常勤換算 9、1人

## (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	平均 18,000 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 74歳	最高 94歳

## (5) 協力医療機関 大崎市民病院田尻診療所

協力医療機関名	加藤歯科クリニック, 中澤歯科医院, 柳澤歯科医院, 涌谷町国保病院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホーム「ひだまり」は、平成14年4月に旧田尻町の公設民営施設(経営主体は社会福祉法人田尻福祉会)として開設されたこともあり、特に行政との連携が密である。また地域密着型サービスの面でも「もうひとつのわが家でのやすらぎと喜びのある生活」「のんびり、ゆったり、私らしく」の理念を基に全職員一体となつてのチームケアを実践しているため、家族はもちろんのこと地域住民の理解と協力が寄せられている。入居者も信頼感、安心感のもとに落ち着いた明るい顔で暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部)
	生活空間づくりやケアマネジメント、医療健康支援、職員の意見の反映および継続的な研修の受講などが改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回に限らず全職員が評価の意義を理解し取り組んでいる。その手法はホームの中に評価委員会を設けてフォーマットを作成し一週間かけ全体の意見をとりまとめたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年運営推進会議を設置してから既に2回開催し、3回目を9月中に開く予定があり、運営に取り組むホームの姿勢が窺われる。議事録にも田尻地区総合防災訓練実施について協議するなど地区長、民生委員、入居者、家族代表、地域包括支援センターなどの構成メンバーになっており、一方通行ではなく双方向的な運営になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	早い段階から家族会が結成されていることもあり、家族の理解と協力関係は極めて良好と言える。このことは家族のアンケート及びホームの自己評価のサービス成果の4段階評価にも表れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議のメンバーである地区長や民生委員の方の助言とともに行政(田尻町)からの適切な指導もあり、地域での交流が活発に行われている。○近隣の幼稚園、小学校との交流 ○ボランティアによる介護の手助け ○行事の際の食事提供 ○畑仕事・庭の草取り、他。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	のんびり、ゆったり、私らしくを基本に、「もうひとつの我が家での安らぎと喜びのある生活」をケアの中心に据え地域密着型サービスについて全職員が一体となったの理念を確固なものにしている。地域生活の継続と関係性の強化について常に原点に立ち戻って考えるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を管理者をはじめ全職員が理解し共用し、実践している。合わせて心構えや理想とする職員像などについて話し合い、日々のケアに取り組んでいる。		
2 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長や民生委員の助言もあり、地域活動に参加している。自治会(町内会)には今のところは加入していないが、今後運営推進会議の中で話し合い、必要があれば加入を検討していく。近隣の幼稚園との散歩の会や地域の文化祭での作品の出展などを通じ交流を深めている。		
3 理念をん実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回に限らず全職員が評価の意義を理解し、形式的なものに終わらせず今後の改善につなげていくことが求められていることを受け止めその活用に取り組んでいる。	○	また今年度より採用された法人の人事考課制度の自己評価とも関連させ、常に振り返ること、気づくことの大切さを意識し今後役に立てていきたいとするホームの意欲に期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年地区長、民生委員、地域包括支援センター、家族代表、居宅介護管理者、ホーム職員の構成で設置しこれまで2回会議を開催している。議事録があり、行政(田尻町)との連携も密である。なお運営推進会議の設置がきっかけとなり家族会が結成されている。	○	課題のひとつの防火、防災体制について、区長をはじめ地域の住民が真剣に受け止めてくれていることが認識できた。今後開催日時に配慮することも含め運営の充実強化をはかっていくとするホームの熱意に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大崎市田尻町のスキップ構想(行政とグループホームの連携のための勉強会)に基いて月に2回定期会議を開いていて、日頃から連携をとっている。また調査当日も行政担当者が終日同席していることから密接な関係が築かれていると言える。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多い。(月に1~2度、中には毎日)月に1回定期的に手紙での報告や連絡をしている。ホームでの行事の際には、パソコンやビデオで日常生活の様子を伝えている。家族会もあり、金銭管理報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を個別に聞く機会を月1度設けて「このようにしてもらえたら有難い」と言うのを中心に職員との間で話し合い運営に反映する努力をしている。ご意見箱を窓口においている。広報誌「かごぼう」が一定の役割を果たしている。	○	現在入居者のこと以外(家族)についても話し合いコミュニケーションを深める努力をしているとのことであり期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来6年間で離職は3名、法人内の人事異動による管理者の交替は4回であるが、利用者にも与える影響を防ぐ配慮を行っている。		
出					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	指導者研修は未実施であるが、経験年数による段階別の研修は計画的に実施している。受講後は研修報告会議で報告している。(報告書の提出義務あり)非常勤職員も内部研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム連絡協議会に加入しており、交流、研修に参加している。地域の同業者との交流については主として管理者中心に相互訪問などの活動を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
く					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申請が提出されたら、本人または家族の方に見学に来てもらいホームの様子を見て頂いている。入居時には本人の状況に応じて混乱を生じさせないよう綿密な打ち合わせを行い対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の大先輩として敬い、生活歴や得意なことなどを教えてもらうという姿勢で対応しており、共に過ごし支えあう関係が自然のものとして感じとれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の思いや意向を聴くように心掛けて把握に努めケアに生かしている。		
把握に努めケアに活かしている。					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に本人の視点に立って困っていることは何かを話し合い、チームで作る入居者本位のプランを作成している。その立場から従来行ってきた認知症介護研究研修東京センター方式について、一部補充して継続実施している。作成したプランは家族に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回ケアカンファレンスを行い、関わりや現状の確認に合わせてプランの見直しをしている。また事前に対応できない変化が生じた時は、その都度新たなプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて通院や送迎等必要なサービスは柔軟に対応し、個々の満足度を高める努力をし支援している。同一法人との協同の関係もあり、ショートステイ等多機能性を活かした支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、入居前からのかかりつけ医の診療がうけられるよう家族と協力のもとに通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関との関係を密にして支援を行っている。また歯科の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、状態の変化にともない、今後考えられる状態を主治医から家族に対し説明をしている。その中でホームとしてできる最大のケアについて説明をし理解を得ているが、終末期のあり方については今のところ考えていない。	○	今後、医療連携体制や看護師の配置、往診可能な医師の確保等、終末期に向けた方針の共有を考えていきたいとのことなので、期待したい。(他の利用者との関係や家族の協力体制の関係もある)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーの確保については全職員が理解している。プライドも損ねることのないよう尊厳を常に意識してケアに取り組んでいる。言葉かけや対応、記録等個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日一日の生活の流れはあるが、時間を区切ったような過ごし方はせず、その日その時の本人の気持ちを尊重(優先)することで可能な限り本人のペースでその人らしい暮らしが出来るよう支援している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者ご職員が一よに準備や食事、片付けをしている。	一緒に食事をさせて頂いたが、入居者および職員が家族的な雰囲気の中で食事を楽しんでいた。職員のさりげないサポートや入居者の反応もよい(明るく豊かな表情)。入居者の食べたいもの、旬のものを多く採り入れ調理・後片付けも共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者本人の希望に合わせ毎日でも或いは夕食後の夜間帯でも入浴可能である。入浴を拒む方には「明日お出掛けするのでサッパリしませんか」と声がけすることで効果を挙げている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの得意分野で自分の力を発揮してもらえようなものをお願いし感謝のこぼれを伝えるようにしている。例えばホットプレートでぎょうぎを焼いたり、リビングに本棚を置いたりプライベートゾーンでおやつを食べながら新聞や雑誌を読んだり様々な気晴らし支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出好きな方が多いことから、日頃天候を見ながら外出の機会を設け気分転換を図るように心掛けている。町内めぐりや買い物兼ねスーパーに出掛けたり支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていない、全職員が鍵をかけないケアに徹している。一部入居者の中に窓から出入りする事例もあるが、この場合でもそっと見守ることで対応している。今後運営推進会議の中で近隣住民の理解と協力を要請していきたい。		
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練(うち1回は夜間想定)を実施している。地元の地区長が協力的で地区の防災自治組織に援護施設としてマニュアル化され救護担当者が決められている。	○	現在のマニュアルをより充実させるため(北又地区のものとホームのものをひとつにしたもの)に検討をしているとのことであり期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表で記録し、全職員が情報を共有していると同時にカロリーや栄養バランスについて法人内の管理栄養士の助言と指導を受けている。(月1回)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
あ					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の暮らしの中で五感や季節感を意図的に採り入れる工夫をしている。玄関まわりには季節の花やテーブルと椅子が置かれ近隣の方も立ち寄りやすいしつらえになっている。高い天窓、吹き抜けのあるリビングは明るく開放感があり続きの和室は客間の雰囲気を醸し出している。またトイレにはペーパータオルが取り付けられていて清潔感がある。		
30	83	○居心地のよく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室、和室共ベットの置かれていて馴染みの家具が持ち込まれており居心地よく過ごせるプライベートゾーンとしての配慮が感じられる。		